定量法　本品を105℃で１時間乾燥し、その約５gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水約60mLを加え、十分にかき混ぜた後、ろ過し、そのろ液を100mLの全量フラスコで直接受ける。水約30mLで試料の溶解に使用したビーカーを洗い、さらに、その洗液でろ紙の固形分を洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とする。

試料溶液20mLを全量ピペットを用いて量り、径50～55mmの磁製又は白金製のるつぼに入れ、穏やかに加熱して水を蒸発させ、次に、徐々に温度を上げ、約２時間加熱して完全に炭化する。加熱温度は、るつぼが暗赤色を呈する程度（300～400℃）とする。このときバーナーの炎が炭化物に触れてはならない。放冷した後、炭化物をガラス棒でよく砕き、るつぼと共にビーカーに入れ、水約50mLを加えた後、0.25mol/L硫酸50mLを加え、時計皿で覆い、水浴上で１時間加熱した後、ろ過する。ろ液が着色しているときは、新たに試料を量り、十分に炭化を行う。ビーカー、るつぼ及びろ紙上の残留物は、温湯でよく洗い、洗液が青色リトマス紙を赤変しなくなったとき、洗液をろ液に合わせ、過剰の酸を0.5mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　メチルレッド試液３滴）。同様の方法で空試験を行う。

0.25mol/L硫酸１mL＝48.03mg$C_3H_5NaO_2$

(イ)　保存の方法の基準

プロピオン酸ナトリウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑭　プロピレングリコール

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、定量するとき、プロピレングリコール（$C_3H_8O_2$）97.5%以上を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、無色で、透明なシロップ状の液体で、臭いはない、又は僅かに特異な臭いを有し、味は僅かに苦い。

②　本品は、水、アセトン、エタノール又はクロロホルムと混和する。

③　本品は、エーテルに溶けやすい。

④　本品は、吸湿性である。

確認試験

①　本品0.5g（0.45～0.54g）にピリジン５mL及びトリフェニルクロルメタン3.6g（3.55～3.64g）を加え、還流冷却器を付けて水浴上で１時間加熱し、放冷した後、温アセトン100mLを加えて溶かし、活性炭0.1g（0.05～0.14g）を加え、よく振り混ぜ、ろ過し、ろ液を水浴上で50mLになるまで蒸発濃縮した後、冷蔵庫内に一夜放置し、生じた結晶をこしとり、ピリジン臭がなくなるまでごく少量のアセトンで３度再結晶し、105℃で30分間乾燥するとき、その融点は、173～179℃である。

②　本品１mLに硫酸水素カリウム0.5g（0.45～0.54g）を加え、穏やかに加熱するとき、果実様の香気を発生する。

純度試験

①　比重　本品の比重d_{20}^{20}は、1.036～1.040でなければならない。

②　酸　本品10mLに新たに煮沸し冷却した水50mLを加え、混和し、フェノールフタレイン試液５滴及び0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液0.30mLを加えるとき、溶液は、赤色でなければならない。

③　塩化物　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、塩化物試験法により試料溶液を調製し、0.01mol/L塩酸0.4mLを用いて比較液を調製して塩化物の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.007%以下）。

④　重金属　本品5.0g（4.95～5.04g）を量り、重金属試験法第１法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.5mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（５μg/g以下）。

⑤　ヒ素　本品0.7g（0.65～0.74g）を量り、ヒ素試験法第１法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（３μg/g以下）。

⑥　グリセリン及びエチレングリコール　本品約１gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて1,000mLとし、その13mLを量り、過ヨウ素酸カリウム0.2g(0.15～0.24g）及び硫酸１mLを加え、更に水50mLを加えた後、毎分３～５mLの速度で蒸留し、残留液が約１mLとなるまで蒸留を続ける。留液は、氷水中に冷却した受器に集める。この留液に水を加えて500mLとし、試料溶液とする。試料溶液１mLを量り、クロモトロプ酸0.1g（0.05～0.14g）及び硫酸５mLを加え、水浴中で30分間加熱した後、冷却し、水を加えて250mLとするとき、その溶液の色は、ホルムアルデヒド標準液１mLを試料溶液の場合と同様に操作して得た溶液の色より濃くてはならない。

水分　0.20%以下（直接滴定）

強熱残分　本品約20gを0.1gの桁まで量り、その数値を記録し、静かに加熱して沸騰させ、加熱を止め、30秒以内に点火して燃焼させ、放冷した後、残留物を硫酸0.2mLで潤し、強熱残分試験法により試験を行うとき、その量は、0.05%以下でなければならない。

蒸留試験　184～189℃　95v/v%以上

定量法　本品約１gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて溶かし、250mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて250mLとする。その10mLを全量ピペットを用いて量り、共栓フラスコに入れ、過ヨウ素酸ナトリウム試液10mLを全量ピペットを用いて加え、さらに、硫酸（１→２）４mLを加え、よく振り混ぜ、40分間放置する。これにヨウ化カリウム５g（4.5～5.4g）を加え、30秒以内に密栓し、よく振り混ぜた後、暗所に５分間放置し、0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液50mLを全量ピペットを用いて加えた後、さらに、0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　デンプン試液１mL）。別に、同様の方法で空試験を行う。

0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液１mL＝3.805mg$C_3H_8O_2$

(イ)　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

(ア)　成分規格

プロピレングリコール製造用原体の成分規格を準用する。

(イ)　保存の方法の基準

プロピレングリコール製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑮　ポリアクリル酸ナトリウム

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

物理的・化学的性質　本品は、白色の粉末で、臭いはない。

確認試験

①　本品0.2g（0.15～0.24g）に水100mLを加え、よくかき混ぜて溶かし、これを試料溶液とする。この試料溶液10mLに塩化カルシウム試液１mLを加え、振り混ぜるとき、30秒以内に白色の沈殿を生じる。

②　本品を灰化して得た残留物は、ナトリウム塩の定性反応を呈する。

純度試験

①　遊離アルカリ　本品0.2g（0.15～0.24g）に水60mLを加え、よくかき混ぜて溶かし、これに塩化カルシウム試液３mLを加え、水浴上で約20分間加熱し、放冷した後、ろ過する。ろ紙上の残留物を水洗し、洗液をろ液に合わせ、更に水を加えて100mLとし、これを試料溶液とする。試料溶液50mLを量り、フェノールフタレイン試液２滴を加えるとき、紅色を呈してはならない。